

転換期にあるNPO？

近年のNPOの活動の活発化には目を見張るものがあります。特定非営利活動法人の取得件数が今年始めには2万5千を越え、3万法人に近づこうとしています。これほど急激に増えてくるとは、想像もしていませんでした。法人格取得に特別な意味があるとは思いませんが、NPOの活動の社会的認知度が高まったということはいえるだろうと思います。

ところが、法人格取得の有無は別にして、多くのNPOの活動のなかで改めてみると、どうも私たちが目指してきたような活動ばかりではないことに、しばしば気づかされます。極端に言えば、仕事をしやすいので、また営業しやすいのでNPO法人格を取得しました、などということが、特に何のわだかまりもなく言われてしまいます。町内会や自治会でもNPO設立を考えています。また自分たちの楽しい趣味の活動グループが、NPOの活動なのだとおっしゃる方もあります。

ここに例示したような活動が、非営利性、あるいは社会性や公共性という観点から、NPOの活動ではない、市民活動ではない、といってしまうのは簡単です。しかし、もう一方では、阪神淡路大震災後の第一世代NPOが、成熟段階に達しつつあり、その組織の刷新、世代交代や新たな使命への再構築を迫られていることが徐々に明らかになってきています。その中で、こうした活動が市民社会において持っている価値や意味については、その歴史や伝統を踏まえて、もう一度しっかりと考えなければならないと思っています。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 新川達郎

内容

「協働の強化書」研究会、サポート資源提供システム、
センターサロン、新スタッフ紹介
らくだのブック、BOOK、事務局活動報告、など

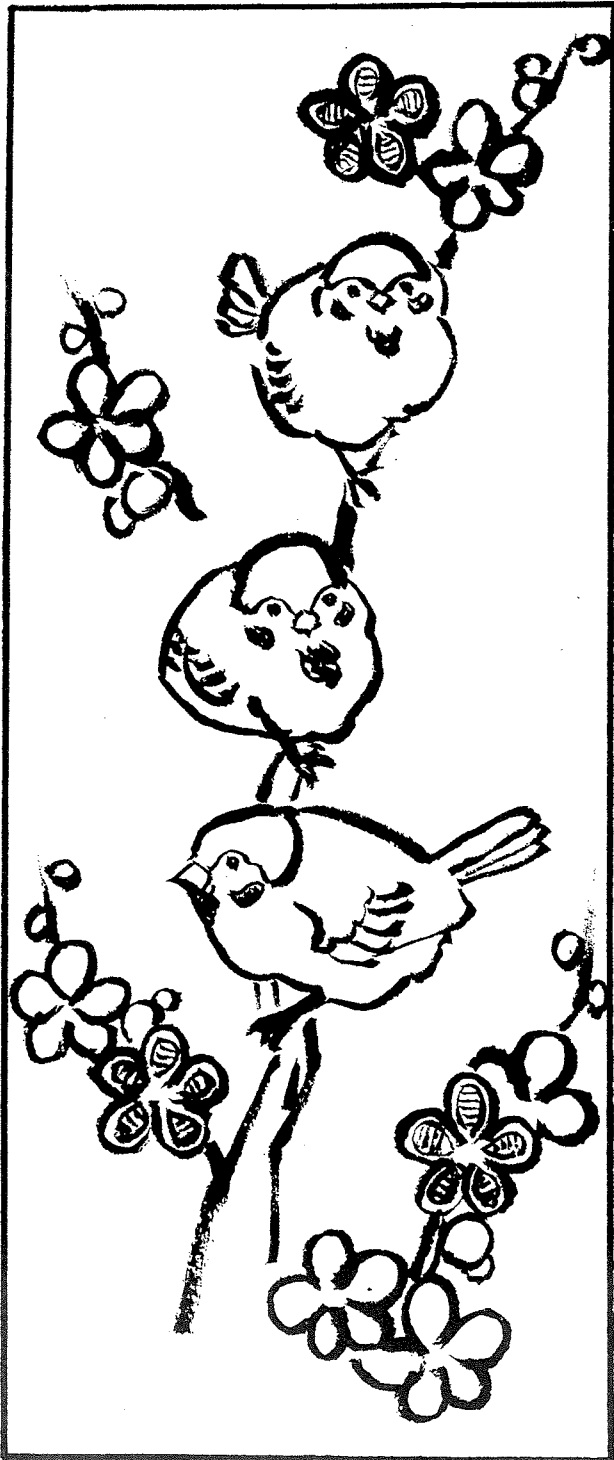


イラスト 渋谷 丹さん

研究員
募集!

協働を進める市民のための手引き書を一緒につくりませんか？

～「協働の強化書」研究会へのお誘い～

せんだい・みやぎNPOセンターでは、4月から「協働の強化書」研究会>を実施することになった。昨年発行した「NPOが社会を変えられない5つの理由」に続き、NPOの運営にとって今ホットなテーマである「協働」について深く掘り下げて手引き書を作成する予定である。乞うご期待！（財源としては、宮城県共同募金会の配分金を予定中）

当センターは2004年12月から1月にかけて、市民の提案力向上連続セミナー「NPOが社会を変えられない5つの理由」を開催した。NPO／市民活動団体が社会を変えていくためには何が必要か？これを「権利を知らない」「制度を知らない」「調べられない」「形にできない」「伝えられない」という5つの切り口からアプローチを試みた。その後、我々を取り巻く環境はどのように変わってきただろうか。

近年、NPO／市民活動団体の成長はめざましい。一方、行政の財政難や情報公開制度の普及など、官民関係が大きく変化している。その中で、行革の一環として、様々なアウトソーシングの手法が多用されており、指定管理者制度の導入とあいまって、NPOへの行政からの業務委託や指定管理者指定が相次いでいる。

また、企業の対応も根本的な社会的な転換期を迎えている。グリーンコンシューマーやグリーン購入、ISO14000シリーズの導入など、広がる環境意識への対応を超えて、CSR（コーポレート・ソーシャル・リスボンシビリティ／企業の社会的責任）やSRI（社会的責任投資）が浸透し、社会の一員としての貢献と責任を強く求められている。その中で、一部の企業は、NPOとの協働の取組みを始めている。

しかし、まだまだお互いのことをよく知らないことや、協働の考え方になじみがないために、

さまざまな課題や困難も発生している。また、協働は単なる事業の受委託の関係ではなく、NPO側から見れば政策提言のプロセスの一環でもあり、どのように提案し、どこまで実現したかが検証されなければならないはずである。そこで当センターでは、「協働の強化書」研究会を立ち上げ、NPOと行政／企業との協働の実態を探り、よりよい協働のあり方の研究を行って、市民・NPO向けの手引き書を発行する計画である。

「協働の強化書」研究会は、前述の問題意識を前提に、実際に協働に取り組んできたNPOの人たちと、その相手方である自治体職員及び企業人を中心に研究員を募り、

- ①宮城県内のNPO法人および主要な市民活動団体（任意団体）に対する協働の実態調査（アンケート調査）
- ②アンケートで注目すべき団体と事例について10例程度の詳細調査（ヒアリング調査）
- ③ヒアリングした事例をもとに、研究会参加者による事例分析（ケーススタディ）
- ④報告書「協働の強化書」の編集と発行

以上の4ステップを研究会活動として行い、多くのNPOと自治体・企業関係者の協働理解と実践に寄与することを目的としている。

スケジュールとしては、4月から6月にかけて①のアンケート調査は、調査票作成→調査実

施→集計・分析を行う。②のヒアリング調査は、9月までに一部アンケート調査と時期をラップしながら、それぞれ分担を決めて行い、10月から12月にかけて各自担当したヒアリングの結果を持ち寄り、③のケーススタディを行っていく。1月以降は④「協働の強化書」の編集作業を行い、平成18年度内の発行を目指していく。

「協働の強化書」研究会の準備会ともいうべき第1回目は、来る4月12日(水)18時より、仙台市市民活動サポートセンター研修室1にて開催する。活動内容の部分でも少し触れたが、本研究会は、アンケート調査、ヒアリング調査、そして「協働の強化書」の編集作業と、フィールドワークや実作業が中心となるが、これらの調査を通して学ぶことも多いはずである。

研究会担当理事 加藤哲夫
担当者 小松敏成



◆第1回「協働の強化書」研究会

日時：4月12日(水)18:00～

会場：仙台市市民活動サポートセンター
研修室1

<呼びかけメッセージ>

キョードー、キョードーという声にぎやかです。(仙台市の方からはあまり聴こえてこなくなりましたが...)指定管理者制度の導入もあって、ますます行政とNPOの協働が話題になっています。企業の指定管理する施設とNPOの指定管理する施設はどこが違うのでしょうか？NPOにアウトソーシングすることだけが協働でしょうか？

行政とNPO、企業とNPOが、互いに資源を持ち寄りながら、共通の地域社会の課題解決に汗を流す取り組みが「協働」です。行政側には「協働を進めるための指針」や「手引き書」がつけられています。けれど市民側はまだ情報不足、理論不足です。実際に行われている協働も多種多様です。

そこで実際の協働の事業の現場を歩き、ヒアリング、アンケート、ケーススタディなど一連の調査・研究を行うことで、市民のための協働の手引き書「協働の強化書」をつくりたいと思います。研究員として参加しませんか？ご連絡お待ちしております。

<エル・パーク仙台の廃止に反対する緊急アピール>に せんだい・みやぎNPOセンターとして賛同し、署名を行いました

2006年1月10日、突然「仙台市がエル・パーク仙台の廃止検討」との新聞記事が出ました。俗に言う「リーク」で、新聞に報道されて多くの人たちは知ったわけですが、市としての正式の発表ではないところが、そもそもおかしいと言えるでしょう。こういう情報を自ら発表せず、一部の新聞記者に漏らすことで様子を見ようとしているのだとしたら市民をなめているのではないのでしょうか。たちまち多数の市民団体が反対の意思表示をし、署名活動を開始しました。当センターとしては、十分な討議と市民参加を重ねて検討設置されたものを、その関係者にも知らせず廃止のやり玉に挙げる非民主主義的な政治手法が問題であるとの理由から、1月20日の理事会の決議を経て廃止反対の署名に名前を連ねました。今後もこの問題を注視していきたいと思ひます。

(加藤哲夫)

サポート資源提供システム 報告

2000年度に地域の企業・団体の皆様と開発を始め、2002年度より本格運用を開始した「サポート資源提供システム」(以下、SSS)は、無事、本格運用の4年目を終了しようとしています。

●2005年度運用実績

SSSは、オフィス什器・備品や消耗品などを提供する「物品提供」、中古パソコンやその周辺機器を提供する「パソコン提供」、地域の皆様の寄付などからなる資金を助成金の形で提供する「資金提供＝地域貢献サポートファンドみんみん」の3プログラムで、地域のNPOの皆さんの活動をサポートする仕組みです。2005年度には、なんと、のべ112団体の皆様に総額1,132万円の支援を行うことができました。資源提供にご協力いただいた企業・団体・市民の皆様にあらためてお礼申し上げます。

「物品提供」では、(株)地域計画研究所様、東京海上日動火災保険(株)様、三井住友海上火災保険(株)様(提供順)などから提供をいただきました。「パソコン提供」では、システム運用の当初からお世話になっている(社)宮城県情報サービス産業協会様に引き続きお世話になりました。「資金提供」では、市民の皆様からの寄付による「みんみんファンド(本体ファンド)」、宮城県労働者福祉協議会様からの寄付金による「ふくふくファンド」、東北労働金庫の預金者の皆様からの寄付金と金庫からの拠出金からなる「ろうきん地域貢献ファンド」、宮城県の拠出金と市民の皆様からの寄付による「みやぎNPO夢ファンド」の4基金から助成金の提供が行われました。

SSSの運営については、SSSの運営に協賛金をいただいている「協賛企業・団体」、SSSに継続的なご協力をいただいている「提携企業・団体」の皆様による「運営委員会」の場で協議することとしており、透明性・客観性のある運営に努めています。

また、SSSによる資源提供を受けるには、当センターで別途運用している「NPO情報ライブラリー」に登録し、団体の活動内容などの情報を積極的に提供していただくことをお願いしています。現在138団体のご登録をいただいています。会員で未登録の団体さんは、ぜひご登録をお願いいたします。

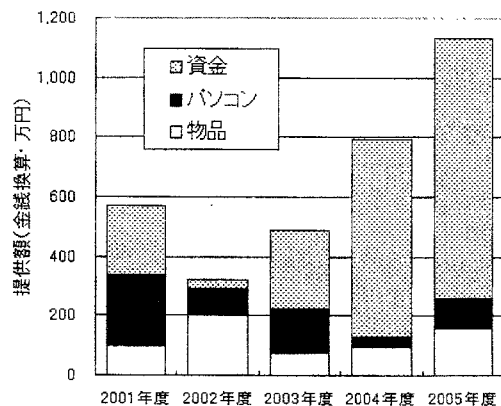
●これまでの運用実績を振り返る

試験運用の2001年度を含め、これまでの5年間をまとめると以下のグラフのようになります。

2005年度 サポート資源提供システム 資源提供実績
(2006年2月までの実績)

	提供元 団体・社数	提供先 NPOのべ数	提供点数	提供額 (*)
物品	4社・団体	36団体	572点	159.5万円
パソコン	1社・団体	41団体	54台	100.5万円
資金	4基金	36団体	—	872万円
合計	—	112団体	—	1132万円

(*) 物品・パソコンについては、市場の中古価格をもとに換算



(注) 2001年度は試験運用期間(2001/09～2002/06)
2002年度は8ヶ月間の実績(2002/07～2003/03)
2005年度は11ヶ月間の実績(2005/04～2006/02)

2年目の2002年度に一旦落ち込みはありましたが、2003年度にファンドの運用を開始してからは、おかげさまで一貫して提供実績が伸びています。2005年度は、前年度比約43%の伸びとなりました。ただし、SSSの運営にかかる経費については、毎年赤字となっており、センターからの持ち出し(会員の皆様の会費や寄付金などを充当させていただいております)は毎年200万円を超える規模になっています。センターとしても、収支の改善に向けた努力をこれまで通り続けてまいります。会員の皆様にも、これまでとかわらぬご支援をよろしくお願いいたします。

※関連URL サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/> みんみんファンド
<http://www.minmin.org/fund/> ろうきん地域貢献ファンド <http://www.minmin.org/fund/roukin/>
みやぎNPO夢ファンド <http://www.minmin.org/fund/miyagi/>
NPO情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

(高田篤)

報告 センターサロン

■2006年1月27日 新春NPO大交流会

1月のセンターサロンは、「新春NPO大交流会」と題して一品持ち寄りの交流会を実施しました。毎年恒例となったこの交流会は、昨年から企画や当日の運営に当センターのスタッフに加えて、NPOで活動している方々にも協力いただいています。

今年の参加者は44名。皆で持ち寄った料理をいただきながら、会場のあちらこちらで人の輪ができ交流がすすむなか、お楽しみのゲームタイムに突入。「尻文字」「ジェスチャー」「バランス(組み体操)」の3つのゲームのいずれかに、参加者全員が挑戦しました。久々のゲームに初めは照れ気味の皆さんでしたが、尻文字もジェスチャーも迫真の演技でなかなかの正解率でした。そして組み体操では、直前打合せにも関わらずぴつたりと息のあった美しい型をご披露いただきました。

普段の活動では、忙しくてじっくりお話することができなかつたり、他団体と交流する機会は意外と少なかつたりするものです。「毎月やってもらいたいね。」最後にはそんな嬉しい感想もいただき、終始笑いの耐えないなごやかな交流会となりました。

(小松州子)

☆企画協力御礼 南隆昭さん、吉田絵里子さん

■2006年3月17日 ソーシャル・マーケティングのすすめ

NPOが問題を解決し成果をあげていくためには、企業が取り入れている様々な経営手法を、NPO向けにアレンジして活用することも大切です。そこで、今回は、ビジネスコンサルタントの谷村智康さん((財)仙台市産業振興事業団プロジェクトマネージャー)をお招きして、「マーケティング」(売れる仕組みを考えること)の手法を活用して、「NPOの政策提案」「NPOのサービス事業」「行政のキャンペーン」分野で成果をあげていくための「ソーシャル・マーケティング」の手法を学びました。

当日は、マーケティングの基礎から資金調達、敵を知ること、ロジカルシンキングの手法などを、楽しくそして分かりやすく教えていただきました。また、①地域にある問題を②望ましい未来に近づけるため③どんな事業を実施していくのか、この①②③について掘り下げて考え、表現することの大切さを再認識しました。参加者からは「日常の作業をいかに意識づけて行えるか」「第三者の視点を獲得できるようにしていきたい」といった感想が寄せられました。参加者は日々の活動を振り返り、次につながるヒントを得て、その後の交流会も盛り上がりを見せました。(遠藤智栄)

●新スタッフ紹介

1月から勤務をはじめました

◎氏名：渋谷 丹(しげや まこと)

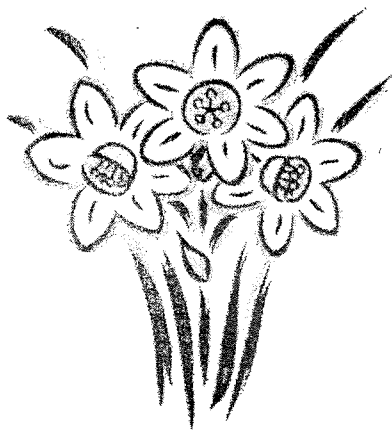
◎出身地：千葉県生まれ、宮城県育ち

◎特技：陶芸、素潜り

◎抱負：市民活動の現場からたくさん学びたい！

◎勤務：市民活動サポートセンター非常勤

文化人類学の講師の「これからの私たちには情報量の多い時代に合った社会造りが求められるだろう。」という話を聞いてから、NPOとはどのようなものか、市民活動にはどのようなものがあるのかに興味をもちました。今年、サポセンの非常勤スタッフとなったことで、市民活動の実験を経験できる良い機会を得たように思います。今後、陶芸に携わる人間として文化に対する造詣を深め、この場で学べる事を生かした社会貢献ができるといいなあと思っています。よろしくお願ひします。



BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.20
100日柚べし。 常務理事・事務局長 紅邑 晶子

お菓子でも入っているような黄色い包みに入って、高知から柚べしが届きました。この柚べしは、中身をくり抜いた黄柚子に特製の練り味噌を詰め、「土佐和紙」とよばれる和紙で巾着型に一つ一つ包み、たこ糸で縛って軒下に吊るしたものです。その間は、100日間。ちょうど冬至から立春の間になるそうです。荷物が到着したこととお礼を兼ねて電話をかけました。「柚べしを吊るしている間はね、どこにも出かけられないんです。雨風や日光からも守らなきゃいけないし、今年はカラスも狙うようになって光るものを置いたりしましたよ。」と、子どもの世話をしているような話し振り。

そこで思い出したのは、10年ぐらい前に自家製のワイン作りに挑戦したときのこと。少なくとも1ヶ月以上1日1回かき混ぜ、十

分に発酵させてから絞るようにといわれ、毎日帰宅するとビンの中のぶどう果汁に「おいしいワインになっとくれ！」と声をかけながらかき混ぜていました。出来上がったワインは、もちろん最高でした。

「手間をかける」ということをあまりしなくなっている今日この頃ですが、手間をかけることは、愛着を持つことにつながります。まちづくりのワークショップも、最近では急がずゆっくりと地域の人たちが参加する取り組みが増えてきました。そうして動き始めたまちづくり活動には、愛着を持った市民が責任を持って参加します。「こんな町にしよう!」と声を掛け合いながら、いま、まちづくりをしている皆さん。何十年か後のあなたの町の未来が楽しみです。

この本は、著者本人が10年間、毎月1回発行している「幸五郎新聞」のエッセイをまとめたものです。まちづくりの「楽しさ」をキーワードに、活動の目的と内容を紹介しています。著者は、自分が育ち、自営する幸洋堂文具店がある仙台市内の「荒町商店街」に大変愛着を持っています。この商店街も他の地域と同様に空洞化が問題になっていますが、この問題に幸五郎さんはリーダーとなって取り組んでいます。「まちおこし」に情熱をそそぎ、アイデア、ひらめき、遊び心を発揮させ実践する、その即断と実行力はすごいと感じました。

また、本書にはふだんから感性を養うことの大事さが書かれています。その極めつけが、本編に挿入されているキャッチコピーです。店頭飾るために書き始めて20年、その時々自分の気持ち素直に自由に表現されたのでしよう。読んで思わず「くすっ」と微笑んでしまうものもある。著者の個性的な感性の輝きを感じるようなものもあります。肩ひじ張らない幸五郎さんの人生・生き方に共感と憧れを持った私です。どこから読んでも楽しめる、おまけにまちづくりとは何か、ということも考えさせられるこの本は、仙台市民はもちろん、まちづくりに興味のある方にとっても必読の一冊です！ (小林 正夫)

BOOK

「熱血!JPNのハルマの熊田風雲録」

出雲幸五郎 著 無明舎出版 発行

一七八五円(税別)

活動
報告事務局活動報告
(12/21~2/20)

■事務局/自主事業関連

- ・ センター会議 (12/28・1/25)
- ・ 奥州いわてNPOネット研修受入 (1/6・7)
- ・ せんだいCARES実行委員会 (1/9・19・25)
- ・ 大町全体ミーティング (1/11・2/6)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (1/13・2/3・13)
- ・ みやぎNPO夢ファンド中間報告会 (1/14)
- ・ 戦略会議 (1/13・2/16) ※2月より名称改め
- ・ 理事会 (第81回:1/20 第82回:2/20)
- ・ サポート資源提供システム「三井住友海上火災保険(株) 物品提供内覧会」「中古パソコン提供説明会」 (1/22・2/13)
- ・ センダードサロン「新春NPO大交流会」 (1/27)
- ・ 「協働推進のための環境をどう整備すればいいのか?」/共催: I I H O E (1/12)

■NPO/企業関連

- ・ 「社会起業&市民プロジェクトのためのファシリテーション力養成ワークショップ」/主催: (特) 一新塾 (1/15 加藤)
- ・ 保育学講座「ボランティアについて」/主催: 聖和学園短期大学 (1/16 小松)
- ・ 日本NPOセンター10周年記念誌打ち合わせ (1/23 加藤)
- ・ 特別授業「クラスボランティア報告会」/主催: 尚絅学院女子高等学校 (1/24 紅邑)
- ・ 理事会ワークショップ/主催: 喜多方市民活動サポートネットワーク (1/27 加藤)
- ・ 長井市中心市街地活性化事業/主催: 長井まちづくNPOセンター (2/1 遠藤智)
- ・ 協働のまちづくりセミナー/主催: ながい置賜NPOネットワーク (2/2 遠藤智)
- ・ 第一回コミュニティビジネス全国サミット in あいち/主催: (特) 起業支援ネット、ピー・エス・サポート (2/4・5 加藤)
- ・ コミュニティ自立研究会ヒアリング調査/主催: (財) 東北開発研究センター (2/14 加藤)
- ・ ボランティアサークル・リーダー研修会/主催: 東北福祉大学ボランティアセンター (2/14 遠藤智)
- ・ 理事・会員マネジメント研修会/主催: (特) しょうがい福祉ネット仙台 (2/15 加藤)
- ・ 市民協働フォーラム「市民参加と協働によるまちづくり」/主催: (特) 花巻市民活動支援センター、岩手県花巻地方振興局 (2/17 加藤)

■自治体関連

- ・ 仙台市市民公益活動促進委員会 (12/21 紅邑)

- ・ 千葉県自治体フォーラム/主催: 千葉県 (12/26 加藤)
- ・ NPOマネジメント・セミナー/主催: 宮城県 (1/7・8・2/11・12 加藤)
- ・ クリーン仙台推進員グループ学習会/主催: 仙台市環境局 (1/10 加藤)
- ・ 柴田町まちづくり委員会 (1/10 紅邑・真壁)
- ・ 「市民活動を進めるワスリート会議」「市民活動を進めるワーキング」/主催: 多賀城市 (1/11・2/8 加藤)
- ・ 「住民協働」「住民協働ワークショップ」/主催: (財) ふくしま自治研修センター (1/13・2/1・2・3 加藤)
- ・ 市民トラスの森「定例会」/主催: 仙台市建設局 (1/22・2/19 青木・佐藤)
- ・ コミュニティビジネス起業家セミナー「カウンセリング」/ (財) 仙台市産業振興事業団 (1/16・17・18 加藤・遠藤)
- ・ 柴田町住民自治基本条例検討委員会 (1/7 紅邑・真壁・小松(敏)、1/17 紅邑)
- ・ うつくしま地球温暖化防止活動推進員研修・事例発表・交流会/主催: (特) 超学際的研究機構 (1/21 紅邑・青木・真壁)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター「事務ブース審査会」「会計・税務講座」「事業開発講座」「NPOいろは塾」 (1/21・30・2/9)
- ・ 秋田県生涯学習・社会教育研究大会/主催: 秋田県 (1/27 紅邑)
- ・ 百年の杜づくりシンポジウム「みんなで作ろう緑の輪」「緑を通じた人づくり・まちづくりワークショップ」/主催: 仙台市 (1/28・2/11 青木・遠藤智・小松(敏)・小松(州))
- ・ せんだいメディアテーク運営協議会 (1/29 紅邑)
- ・ 仙台市社会教育委員の会議 (1/31 紅邑)
- ・ 社の都の市民環境教育・学習推進会議/主催: 仙台市環境局 (2/6 遠藤智)
- ・ 仙台市青葉区まちづくり活動助成事業評価委員会中間報告会 (2/8 紅邑)
- ・ 亘理名取地区市町議会連絡協議会議員研修会 (2/10 加藤)
- ・ 「NPOと行政の協働について」/主催: 山形県村山総合支庁 (2/10 遠藤智)
- ・ 花と緑のアドバイザー養成講座フォローアップ講座 (2/15 青木・小松(敏))
- ・ まち美化達人になるためのお役立ち・連続セミナー/主催: 仙台市 (2/18 加藤・紅邑・遠藤(孝))

■相談、ヒアリング関連

- ・ 経営相談 (1/11・2/13 加藤)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成17年度会員 (敬称略・順不同、2005年12月21日～2006年2月20日)

(新規・準会員)

飯塚文子

(継続・正会員)

ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、エルネット仙台

(継続・準会員)

(特) 白石うぐいす会、アグリノーマライゼーションin秋保、佐々木孝行、田口雄一、青木孝弘、遠藤邦昭

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

◆NPO経営相談

日程：4/21 (金)

時間：13:00～17:00

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

アドバイザー：加藤哲夫

相談料：2500円 予約制

(1時間単位、会員500円割引)

担当：青木



**みやぎ
NPO夢ファンド
申請受付中！
締切 4/10**

お問い合わせは、
当センターまで

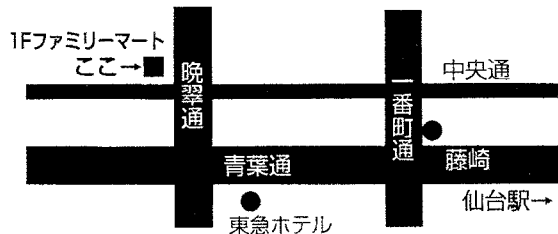


発行：特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
 tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
 E-mail minmin@minmin.org
 http://www.minmin.org/
 会費・寄付はこちらにどうぞ！
 郵便振替：02260-3-16325
 加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

編集スタッフ：遠藤智栄、真壁さおり、小松州子

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



みんな編集後記

お気に入りのWebサイトで「あなたの住みたい街はどんな街ですか？」という問いかけを目にしたので、ちょっと想像してみた。いろいろ浮かんできたけれど、私は季節が感じられる街に住みたいなあと思う。皆さんはいかがですか？(小松) 今年、祖母が94歳にして初めて介護保険のサービスを利用することになった。でも、在宅での生活支援は公的なサービスだけでは不十分。家族、親戚縁者総動員で、てんやわんやの介護を実践中。本人が一番冷静かも？！(真壁)

「事務局通信みんな」のリニューアルが提案され、現在その検討を始めているところです。これまでは会員さんに事務局での事業進捗などをお知らせしてきましたが、今後はどうあればいいと思われますか？皆さんのご提案もお待ちしています。(遠藤(智))